

読書のすゝめ

その11

H27 6/25

沖縄をおもいうことー戦後70年
6月23日が何の日か知っていますか？



「沖縄戦」は太平洋戦争における最後の戦いです。沖縄県民は民間人・軍人を含め約15万人が戦死しました。（4人に一人がこの戦争で命を失ったのです。）一家全滅、集落そのものの玉砕もありました。

1945年（昭和20）4月1日にアメリカ軍が上陸し、6月23日に牛島満司令官の自決をもって沖縄戦は終結を迎えたのですが、沖縄県では、戦争による惨禍が再び起こることのないよう、人類普遍の願いである恒久の平和を希求するとともに戦没者の霊を慰めるため「慰霊の日」と定めました。毎年、この日には糸満市摩文仁の平和祈念公園で沖縄全戦没者追悼式が行なわれます。

鉦田二高では修学旅行に訪れる「沖縄」について、しっかりとした認識・学習をしていきたいと思えます。



『図説 沖縄の戦い』 河出書房新社

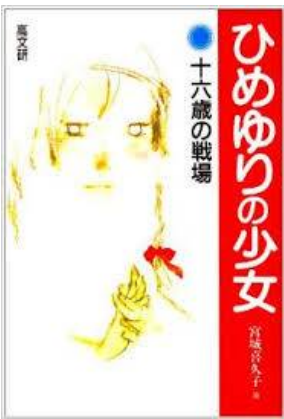
太平洋戦争における最後の戦いであった沖縄戦。3ヶ月にわたる日米両軍の激突の中で沖縄県民15万人が戦没した。家族ごと、あるいは集落ごとの玉砕もあった。史上最大の悲劇の真相に迫る。あまり見ることができない、写真、資料の数々を見ることが出来ます。

『わたしの沖縄戦② ガマであったこと』沖縄戦の真相がここにある』 行田稔彦 新日本出版社
沖縄戦の真相を伝える二巻目。米軍上陸から首里撤退までに、病院壕で人間的感情をなくしていく女子学徒隊や、壕を追い出された住民に迫る。

このシリーズでは他に『弾雨の中で』『摩文仁の丘に立ち』が図書館にあります。

『沖縄戦 ある母の記録』 安里要江 高文連

本書は、その最大の犠牲者である住民の、いわば典型ともいえる一人の若い母親の記録です。沖縄戦に巻き込まれた一住民の、戦闘の全期間を通しての克明な体験記録としては、本書が初めての公刊記録となります。



『ひめゆりの少女 十六歳の戦場』 宮城喜久子 高文連

沖縄戦開始の日の夜、「赤十字看護婦の歌」を歌いつつ陸軍野戦病院へと出発したひめゆり学徒隊。16歳の少女は、そこで何を見、何を体験し、何を感じ、何を思ったか――。

砲弾の下の三か月、生と死の境界線上で書き続けた「日記」をもとに伝えるひめゆり学徒隊の真実。

「ひめゆり学徒隊」の生き残りとして戦争体験を語ってきた元ひめゆり平和祈念資料館副館長で著者の宮城喜久子さんは昨年12月31日那覇市内の病院で死去されました。86歳でした。

※読売新聞では先週から「戦後70年 沖縄戦」という特集記事が掲載されていました。
※図書館では沖縄に関する書籍コーナーがあります。



6月当番 3年3組

図書館内のディスプレイ装飾
テーマは

「スポーツ特集」

野球・サッカー・バレーボール・バスケットボールなど
スポーツ関連の書籍を集めて紹介してきています。

